



心豊かでたくましく 共に生きる子ども

ひらかた

9月号

令和7年9月1日

上尾市立平方小学校

校長 大野 和孝



ホームページ

上尾市 平方小学校

検索

QRコード

～2学期がスタートしました～

校長 大野 和孝

「それぞれの夏休みに行ってらっしゃい」

「行ってきます」

1学期終業式の式辞で子供たちと交わした挨拶です。大きく成長して笑顔で戻ってきてほしいという願いを込めました。

長い夏休み、特に大きな事故などもなく、元気に過ごせたようです。学校に再び子供たちの明るい声が戻ってきました。無事に2学期がスタートできるのも、ご家庭や地域の皆様の温かい見守りのお陰と感謝申し上げます。ここ数年続いている高温傾向はさらに強まっているように感じます。北海道でさえ気温40度に迫る日があるなど、異常気象が日常のこととなりつつあります。9月に入っても残暑が続きますので、熱中症対策を続けながら、学校でもご家庭でも健康で安全に過ごしたいものです。さらに、台風や線状降水帯についても報道が多かった夏休みでもありました。今後も事前に情報を把握しながら、身の危険を守る安全な行動にも気を付けていきましょう。気象災害については、情報を上手に活用しながら、事前の準備や対策と、いざとなったら絶対無理をしないことです。登校前に危ないと感じたら無理をせず、自宅待機をして様子を見てください。学校もできるだけ早い段階で情報を発信できるよう努めてまいります。最終的には一人一人がその場の状況に応じた対応を行うことが大切となります。まずは、自分の命、安全を第一に考えて行動しましょう。

さて、本校では、体育科を中心に子供たちの自己有用感(自分は誰かの役に立っている、自分には価値があると感じる心の状態)を高める教育活動に取り組んでいます。次に紹介するのは、ある石工(いしく)の話です。『石材を切り出している2人の石工に、通りがかった人が「何をしているのですか。」とたずねたところ、一人の石工は「このいまましい石を切っているところさ。」と不機嫌な顔でぼやき、もう一人の石工は「大聖堂を建てる仕事をしているのだよ。」と誇らしげに答えた。』これは、スカンジナビア航空の社長となり、会社を再興させたヤン・カールソン氏が「真実の瞬間」という著書の中で会社経営について語った一説です。同じ石切りの仕事をするのでも、完成する大聖堂をイメージできるか否かで、仕事への意欲や満足感、誇りといったものが大きく変わってくるという例えです。

子供の立場からすれば、行為を周りから肯定的に見られるか、否定的に見られるかによって、やる気や自信が大きく変わるということになります。「～をがんばりなさい。」「～しないと、～になってしまうよ。」と叱咤激励や不安を煽ってばかりでは、子供たちの生活は楽しくないものになってしまうかもしれません。ほめる教育の推進はもとより、子供たち同士の肯定的な声掛けや雰囲気醸成に努めていきます。2学期は、ミュージックフェスティバルや持久走大会、校外学習等様々な学校行事も予定されています。ご家庭におかれましても、お子様の頑張りをたくさん認め、ほめてあげてください。私も子供たちと一緒に喜び合いたいと思います。